

(様式第9)

東北病医第232号
平成19年10月4日

厚生労働大臣 外添要一 殿

東北大学病院長
里見 洋

特定機能病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成18年度の業務に関して報告

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	7.25人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護婦及び准看護婦、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	356人	171人	527人	看護業務補助	48人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	0人	0人	0人	理学療法士	13人	臨床検査技師	89人
薬剤師	66人	3人	68.2人	作業療法士	4人	衛生検査技師	3人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	7人	その他	0人
助産師	59人	0人	59人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	903人	33人	927.7人	臨床工学技師	11人	医療社会事業従事者	11人
准看護師	5人	2人	6.5人	栄養士	0人	その他の技術員	81人
歯科衛生士	0人	0人	0人	歯科技工士	0人	事務職員	225人
管理栄養士	8人	0人	8人	診療放射線技師	53人	その他の職員	32人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 4 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	977人	20人	997人
1日当たり平均外来患者数	1,821人	1人	1822人
1日当たり平均調剤数	1,046剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 高度先進医療の承認の有無及び取扱患者数

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱患者数
顔面骨又は頭蓋骨の観血的移動術	無	人
培養細胞による先天性代謝異常診断	無	人
溶血性貧血症の病因解析及び遺伝子解析診断法	無	人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有	3人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	無	人
人工中耳	無	人
実物大臓器立体モデルによる手術計画	無	人
性腺機能不全の早期診断法	無	人
経皮的レーザー椎間板切除術(内視鏡下を含む)	無	人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	無	人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	無	人
血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	無	人
焦点式高エネルギー超音波療法	無	人
オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術	無	人
肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	無	人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	無	人
筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	無	人
SDI法による抗がん剤感受性試験	無	人
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	無	人
栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	無	人
家族性アミロイドーシスのDNA診断	無	人
三次元形状解析による顔面の形態的診断	無	人
マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	無	人
抗がん剤感受性試験	無	人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	無	人
不整脈疾患における遺伝子診断	無	人
腹腔鏡下肝切除術	無	人
画像支援ナビゲーション手術	無	人
悪性腫瘍に対する粒子線治療	無	人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	無	人
成長障害のDNA診断	無	人
生体部分肺移植術	有	1人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	無	人
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	無	人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	無	人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	無	人
声帯内自家側頭筋膜移植術	無	人
骨髄細胞移植による血管新生療法	無	人
ミトコンドリア病のDNA診断	無	人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有	16人
鏡視下肩峰下腔徐圧術	無	人
神経変性疾患のDNA診断	無	人
脊髄性筋萎縮症のDNA診断	無	人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	無	人
固形がんに対する重粒子線治療	無	人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	無	人
カフェイン併用化学療法	無	人

31燐-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	無	人
特発性男性不妊症又は性腺機能不全症の遺伝子診断	無	人
胎児尿路・羊水腔シャント術	無	人
遺伝性コプロポルフィン症のDNA診断	無	人
固形腫瘍（神経芽腫）のRNA診断	無	人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	無	人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断	無	人
自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	無	人
膝腫瘍に対する腹腔鏡補助下膝切除術	無	人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	無	人
悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	無	人
高発がん性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	無	人
筋過緊張に対するmuscle afferent block (MAB) 治療	無	人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	無	人
エキシマレーザー冠動脈形成術	無	人
活性化Tリンパ球移入療法	無	人
抗がん剤感受性試験（CD-DST法）	無	人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	無	人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	無	人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	無	人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	無	人
中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	無	人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	無	人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	無	人
内視鏡下甲状腺がん手術	無	人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	無	人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有	8人
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	無	人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	無	人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術（CT透視下法）	無	人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	無	人
活性化血小板の検出	無	人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	無	人
ケラチン病の遺伝子診断	無	人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	無	人
末梢血幹細胞（CD34陽性細胞に限る。）による血管再生治療	無	人
末梢血単核球移植による血管再生治療	無	人
副甲状腺内活性化型ビタミンD（アナログ）直接注入療法	無	人
グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	無	人
腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	無	人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	無	人
自己腫瘍（組織）を用いた活性化自己リンパ球移入療法	無	人
自己腫瘍（組織）及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	無	人

高度先進医療の種類（歯科）	承認	取扱い患者数
インプラント義歯	無	人
顎顔面補綴	無	人
顎関節症の補綴学的治療	無	人
歯周組織再生誘導法	無	人
接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	無	人
光学印象採得による陶材歯冠修復法	無	人

エックス線透視下非観血摘唾石摘出術	無	人
レーザー応用による齶蝕除去・スケーリングの無痛療法	無	人
顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	無	人
顎関節脱臼内視鏡下手術	無	人
耳鼻いんこう科領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	無	人
自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術（PPH）	無	人
画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	無	人
強度変調放射線治療	有	19人
胎児心超音波検査	無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有	4人
画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	無	人
インプラント義歯	無	人
顎顔面補綴	無	人
人工内耳	無	人
歯周組織再生誘導法	無	人
抗がん剤感受性試験	無	人
腹腔鏡下肝切除術	無	人
生体部分肺移植術	無	人
活性化血小板の検出	無	人
末梢血幹細胞による血管再生治療	無	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	無	人
超音波骨折治療法	無	人
眼底三次元画像解析	無	人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	無	人
X線CT診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	無	人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入する。
2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。
3 先進医療で上の表に掲げているものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 高度先進医療で上の表にあげられていないもの
高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類 (医科)	承認	取扱い患者数
肺癌患者検体のEGFR遺伝子変異検索に関する研究	無	101人
複数レシピエントに対する同時脳死移植手術の麻酔業務のマネジメント	無	3人
大量出血を伴う手術の麻酔管理	無	10人
経皮的椎体形成術	無	1人
乳癌のHER2遺伝子増幅の有無に関するFISH検査	無	50人
軟骨部腫瘍、脳腫瘍に対するFISHによる悪性遺伝子検査	無	15人
覚醒下脳外科手術	無	5人
18FフルオロデオキシグルコースによるPET検査	無	2,978人
血管内超音波による診断法	無	10人
高精度生体計測法 (超音波生体顕微鏡) : 動脈硬化症および血管炎における動脈壁内部の組織ならびに機能変化の非侵襲的高精度計測	無	300人
内視鏡的胆管結石除去術	無	31人
超音波内視鏡検査	無	193人
内視鏡的マイクロ波凝固法	無	38人
体外衝撃波による膵石粉碎術	無	7人
内視鏡的粘膜切開剥離法	無	110人
高度進行肝細胞癌に対する集学的動注化学放射線療法	無	7人
肝癌に対する動脈塞栓下経皮的ラジオ波焼灼療法	無	25人
肝癌に対するリアルタイムバーチャルソノグラフィ	無	200人
肺胞蛋白症のGM-CSF吸入治療	無	3人
高周波凝固を用いた心房細動に対する外科治療	無	12人

高度先進医療の種類（医科）	承認	取扱い患者数
補助人工心臓	無	4人
自己血回収器具を用いた術中自己血回収	無	45人
マイクロサージェリーを利用した各種血管付自家・複合組織移植	無	44人
組織拡張器による再建手術	無	4人
Nuss法による漏斗胸手術	無	5人
手の先天異常に対する手術加療	無	20人
切断指・肢再接合術	無	25人
唇顎口蓋裂に対するチームアプローチによる集学的治療	無	45人
唇顎口蓋裂による上顎低形成に対する顎矯正手術	無	16人
高度上顎低形成患者に対するRED RETENTION PLATE (The Leipzig Retension Plate) をもちいた上顎仮骨延長術	無	6人
片側小顔面症に対する下顎枝仮骨延長術	無	2人
気道狭窄に対する内ステント留置術	無	1人
婦人科癌におけるセンチネルリンパ節同定	無	34人
婦人科におけるCD・DST法による抗癌剤感受性試験	無	5人
自家末梢血幹細胞移植術	無	6人
難治性骨盤内疼痛症候群・過活動膀胱に対する仙骨表面治療的電気刺激療法	無	10人
陰茎海綿体切除後腓腹神経移植術	無	16人
前立腺癌に対する強度変調放射線療法（IMRT）	無	19人
広汎子宮全摘術における術中電気刺激による神経温存術の確立と術後評価	無	20人
脳内視鏡手術	無	9人
生体小腸移植	無	2人
小児に対する鏡視下手術	無	13人

高度先進医療の種類（医科）	承認	取扱い患者数
経肛門的ヒルシュスプリング病根治術	無	2人
直線加速器による定位放射線治療	無	27人
強度変調照射法（IMRT）	無	19人
遠隔放射線治療	無	120人
埋込型カテーテル・アクセスを用いた局所持続動注療法	無	2人
悪性黒色腫およびその他の皮膚癌におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	無	31人
遠隔病理診断（テレパソロジー）	無	155人
質量分析装置を用いた薬物動態解析（筋弛緩剤ベクロニウム）（商品マスキュラックス）	無	1人
質量分析装置を用いた薬物動態解析（免疫抑制剤シロリムスの副作用）	無	3人

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取り扱い患者数	疾患名	取り扱い患者数
ベーチェット病	107 人	モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	136 人
多発性硬化症	160 人	ウェゲナー肉芽腫症	7 人
重症筋無力症	151 人	特発性拡張型(うっ血型)心筋症	123 人
全身性エリテマトーデス	431 人	多系統萎縮症	30 人
スモン	5 人	表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	3 人
再生不良性貧血	54 人	膿疱性乾癬	12 人
サルコイドーシス	238 人	広範脊柱管狭窄症	5 人
筋萎縮性側索硬化症	72 人	原発性胆汁症肝硬変	87 人
強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	197 人	重症急性膵炎	8 人
特発性血小板減少性紫斑病	110 人	特発性大腿骨頭壊死症	137 人
結節性動脈周囲炎	39 人	混合性結合組織病	41 人
潰瘍性大腸炎	506 人	原発性免疫不全症候群	26 人
大動脈炎症候群	69 人	特発性間質性肺炎	61 人
ピュルガー病	37 人	網膜色素変性症	162 人
天疱瘡	30 人	プリオン病	0 人
脊髄小脳変性症	138 人	原発性肺高血圧症	46 人
クローン病	380 人	神経線維腫症	25 人
難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1 人	亜急性硬化性全脳炎	2 人
悪性関節リウマチ	14 人	バッド・キアリ症候群	6 人
パーキンソン病関連疾患	222 人	特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	25 人
アミロイドーシス	9 人	ライソゾーム病(ファブリー病)含む	8 人
後縦靭帯骨化症	31 人	副腎白質ジストロフィー	1 人
ハンチントン病	4 人		人

(注)「取り扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	186件
剖検の状況	剖検症例数 42例
	剖検率 8.6%

1 研究費補助等の実績

研究課題	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
低出力体外衝撃波治療による心筋虚血改善作用の分子機序の解明	伊藤健太	循環器内科	千円 2,860	補 日本学術振興会 委
重症狭心症に対する非侵襲性体外衝撃波治療法の開発	伊藤健太	循環器内科	千円 5,000	補 東北大学病院 委
体外衝撃波を用いた急性心筋梗塞に対する非侵襲性治療法の開発	下川宏明	循環器内科	千円 30,000	補 厚生労働省 委
動脈硬化早期診断法の確立—血管壁の電子染色法を用いて	岡 芳知	糖尿病代謝科	千円 1,900	補 科学研究費補助金・萌芽研究 委
肺腺癌EGFRキナーゼ活性型変異株はなぜ蛋白分解阻害物質SLPIを高産生するか	貫和敏博	遺伝子・呼吸器内科	千円 5,800	補 日本学術振興会科学研究費補助金 委
肺線維症患者の急性増悪関連遺伝子のプロファイリングとその発現制御	海老名雅仁	遺伝子・呼吸器内科	千円 4,700	補 日本学術振興会科学研究費補助金 委
レジオネラ菌無作為遺伝子変異法を用いたレジオネラ肺炎重症化機序の解明	菊地利明	遺伝子・呼吸器内科	千円 1,500	補 日本学術振興会科学研究費補助金 委
EGF受容体活性型変異と肺胞上皮細胞生理：不活性化シグナルの意義と腫瘍形成・転移	貫和敏博	遺伝子・呼吸器内科	千円 5,200	補 日本学術振興会科学研究費補助金 委
骨髄由来間葉系幹細胞を用いた固形腫瘍および肺組織傷害に関する治療法開発	西條康夫	遺伝子・呼吸器内科	千円 3,000	補 日本学術振興会科学研究費補助金 委
貪食細胞における自己貪食現象による病原菌処理の分子機構に関する基礎的研究	五味和紀	遺伝子・呼吸器内科	千円 1,500	補 日本学術振興会科学研究費補助金 委
HGF導入骨髄由来間葉系細胞を用いた肺組織傷害に対する新規治療法の開発	兼平雅彦	遺伝子・呼吸器内科	千円 1,100	補 日本学術振興会科学研究費補助金 委

1 研究費補助等の実績

研究課題	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
肺幹細胞の効率的分離法の開発と肺幹細胞の解析	西條康夫	遺伝子・呼吸器内科	千円 2,000	(補) 日本学術振興会科学研究費補助金 委
特発性肺胞蛋白症において抗サイトカイン自己抗体はなぜ増加するのか?	田澤立之	遺伝子・呼吸器内科	千円 1,000	(補) 日本学術振興会科学研究費補助金 委
遺伝子導入を用いた齧歯類肺胞上皮I型細胞における遺伝子T1a1phaの機能解析	田原 稔	遺伝子・呼吸器内科	千円 1,500	(補) 日本学術振興会科学研究費補助金 委
びまん性肺疾患に関する研究	貫和敏博 海老名雅仁	遺伝子・呼吸器内科	千円 42,000	(補) 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 委
特発性肺線維症の予後改善を目指したサイクロスポリン+ステロイド療法ならびにNアセチル吸入療法に関する研究	貫和敏博	遺伝子・呼吸器内科	千円 1,000	(補) 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 委
重要問題解決型研究等の推進 生体成分粘膜炎ジュバントによる戦略的予防	貫和敏博 田澤立之	遺伝子・呼吸器内科	千円 2,000	(補) 科学技術振興機構(JST) 科学技術振興調整費 委
肺胞蛋白症における血清中の病因関連蛋白の解析を目的とする研究	貫和敏博 田澤立之	遺伝子・呼吸器内科	千円 2,000	(補) 国立大学法人新潟大学 委
重症特発性肺胞蛋白症に対する顆粒球マクロファージコロニー刺激因子吸入による治療研究	貫和敏博 田澤立之	遺伝子・呼吸器内科	千円 4,500	(補) 文部科学省研究推進費(新医療技術経費) 委
バイロロジカルペースメーカーによる血行動態の維持を目的とした実験的研究	川本駿輔	心臓血管外科	千円 120	(補) 日本学術振興会科学研究費補助金 委
組織再生を応用した血管吻合法の開発と吻合部合併症の予防	本吉直孝	心臓血管外科	千円 100	(補) 持田記念研究助成金 委

1 研究費補助等の実績

研究課題	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
子宮体癌に対する標準的化学療法の実確立に肝留守研究	八重樫伸生	婦人科	千円 1,800	補 厚生労働省科学研究費補助金・がん臨床研究 委
ケモカイン遺伝子のRNA干渉による子宮癌リンパ節転移のリアルタイム解析	新倉 仁	婦人科	千円 1,200	補 科学研究費補助金・基盤研究(C)(2) 委
骨盤自律神経節マッピングに基づいた神経温存術式の開発	永瀬 智	婦人科	千円 1,400	補 科学研究費補助金・基盤研究(C)(2) 委
頭蓋内埋め込み式衝撃波治療装置を用いた脳内ドラッグデリバリーシステム	富永悌二	脳神経外科	千円 9,300	補 文部省科学研究費 委
脊椎再建における衝撃波照射による骨癒合促進に関する研究	富永悌二	脳神経外科	千円 2,700	補 文部省科学研究費 委
ドキシソルビシンリポソームCED・テモゾロマイド全身投与併用による膠芽腫新規治療法	山下洋二	脳神経外科	千円 3,100	補 文部省科学研究費 委
カテーテルインターベンションの安全性確保と担当医師の教育に関する指針(ガイドライン)作成	江面正幸	脳血管内治療科	千円 60	補 国立循環器病センター 委
人工胎盤を開発するための基礎的検討	三浦雄一郎	小児科	千円 1,100	補 科学研究費若手B 委

1 研究費補助等の実績

研究課題	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
人工胎盤を開発するための基礎的検討	松田 直	小児科	千円 2,000	補 日母おぎゃー献金 委
注入方式による体内留置式超小型電気的神経機能調節・制御装置の開発	半田 康延	運動機能再建リハビリテーション科	千円 21,580	補 文部科学省科学研究費補助金基盤研究S 委
電気刺激とボツリヌストキシンの併用による神経調整的治療体系の確立	関 和則	運動機能再建リハビリテーション科	千円 30,810	補 文部科学省科学研究費補助金基盤研究A 委
遠隔放射線診断治療の実用化	山田章吾	放射線治療科	千円 109	補 大崎市民病院 委
マンモグラフィ用検出支援システムの評価および改良に関する研究	山田隆之	放射線診断科	千円 3,000	補 コニカミノルタヘルスケア 委
テレメディシン(遠隔医療診断)システム	山田隆之	放射線診断科	千円 1,020	補 女川町立病院 委
高精度分子認識システムによる胆汁酸新規生理機能の解明	後藤 順一	薬剤部	千円 5,500	補 日本学術振興会(基盤研究B) 委
薬物トランスポーターを機能性器材とする抗癌剤スクリーニングシステムの構築	後藤 順一	薬剤部	千円 1,100	補 日本学術振興会(萌芽研究) 委
トランスポーターを機能性器材として利用した薬物治療法の開発	山口 浩明	薬剤部	千円 1,310	補 日本学術振興会(若手研究(スタートアップ)) 委

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
新規経皮吸収型薬剤伝達システム	後藤 順一	薬剤部	千円 7,693	補 科学技術振興機構 (戦略的国際科学 技術協力推進事 業・国際交流課 題) 委

計39

- (注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。